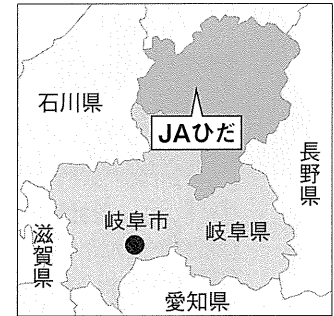


【第21回ゲスト】
谷口 壽夫 氏 上
岐阜県 JAひだ代表理事組合長

【インタビューとまとめ】
石田正昭 京都大学 学術情報メディアセンター 研究員

牛肉、ハウレンソウ、トマト、米などで構成される「飛驒ブランド」——この強力なご当地ブランドで地域経済社会の持続可能性を高めようとしている。組合員の活動も活発におこなわれ、JAの強みをいかに発揮している姿は、他の範となるべきものである。



「飛驒ブランド」で農業、地域を元気に

「飛驒ブランド」で産地形成

石田 飛驒高山は東西の文化が混じりあっていますね。

谷口 古くから京都とのつながりがありましたが、江戸時代に幕府の直轄領となり、高山陣屋が置かれました。廃藩置県で高山県となり、その後わずかな期間ですが信濃国と一緒に筑摩県となりました。その後に岐阜県に編入されました。私が農協に就職した昭和43年頃は、高山陣屋は県事務所として使われていました。

石田 飛驒国の一体性が「飛驒ブランド」の原点ではないかと思えます。

谷口 森林に囲まれた土地柄ですから、古くから木を素材とした工芸品の生産が盛んでした。現在で

は「飛驒匠の技・こころ」で日本遺産の認定を受けています。

農業では、米とまゆ、それに役牛の時代がずっと続きました。昭和30年代後半あたりから米だけではなく、野菜をつくって共同出荷しようよという機運が盛り上がりてきました。大きな消費地から遠いので、共同出荷でなければ成り立たない——そんな事情から専門部会が随時できて現在に至っています。

石田 共同出荷の意識がごく自然に芽生えてきたわけですね。

谷口 半世紀以上も共同出荷をやってきましたので、今でもその意識は徹底しています。雨よけハウスを使って夏秋トマト、夏ハウレンソウを関西に出荷しています。関東にも出荷していますが、全体の八割くらいを占めています。

石田 以前、農村調査に来たときにハウレンソウは出荷調整に手間

がかかり、人を雇わないと大規模にはできない。その点、トマトは大規模にできるのだと聞きました。

谷口 そのとおりです。ハウレンソウは旧・高山市で比較的多くつくられていますが、その理由は町場の人に来てもらいやすいからです。多いところでは20人も30人も雇っています。でも最近はいパートさんが集まらず、JAが監理団体となって技能実習生を受け入れていきます。受け入れ農家は全部で十数戸、人数で50〜60人規模です。

一方、トマトは、JAが選果場をつくって以降、規模拡大がどんどん進みました。新規就農にも懸

命に取り組むというなかで、令和3年度の販売実績は17年ぶりに40億円を突破しました。たいへんうれしく思っています。

石田 単価も高かった？

谷口 量も増えて、単価もよかったです。ハウレンソウと違い、トマトは管理次第で結果が異なる。そこに面白みがあります。多い人で4ヘクタール、7万箱を出荷する生産者もいます。場所的には、旧・丹生川村(現・高山市)が多い。

石田 肉牛はどうですか。

谷口 高山市街から離れた山あいのところ、旧町村名でいうと、清見が多く、次いで河合、宮川、国

府といったところでしょうか。南部の下呂市にも数軒おられます。

石田 松阪牛がそうなんです、「名人」といわれる人はどこに住んでいますか？

谷口 共進会で上位に入るのは清見、国府が多いかな。いずれも、現・高山市に属します。

「誠心誠意、何事にも真つよぶ」

石田 「飛驒のコシヒカリ」もおいしいです。

谷口 日本穀物検定協会の食味ランキングで「特A」をずっととっています。過去に一度「A」のときもありましたが、米・食味鑑定士協会が主催する「米・食味分析鑑定コンクール 国際大会」でも、最高位の総合部門金賞受賞者の数が全国一であることも自慢です。

出品点数もそれなりに多いのですが、6連覇を達成しています。

石田 昼夜の温度差が決め手かな。それに水も。

谷口 それと肥料のやり方、とくに穂肥、実肥が重要です。

石田 「飛驒の酒」も有名ですが、酒造米は何を使っていますか？

谷口 『ひだほまれ』という品種です。飛驒市に県の農業試験場があつて、そこで作出されました。飛驒には造り酒屋さんが12蔵あるのですが、そのすべてで『ひだほまれ』を使っています。



JAひだ (飛驒農業協同組合)

組織の概況 (2021年3月末)

組合員数.....36,242人
(正組合員 13,851人
准組合員 22,391人)

役員数.....34人(常勤・非常勤含む)

職員数.....908人(嘱託・臨時を含む)

地域と農業の概況

岐阜県の北部に位置し、東に乗鞍岳をはじめとする北アルプスや御岳、西に白山連峰を望む高い山々に囲まれ、高山祭、奥飛驒温泉などで有名な高山市をはじめ、古川祭、三寺まじりの飛驒市、下呂温泉、小坂の滝の下呂市、世界遺産白川郷合掌造りの白川村の3市1村を管内としている。

また、昼夜の大きな気温差、冷涼な気候、豊かで良質な水などの自然の恵みを受け「飛驒牛」「米」「トマト」「ハウレンソウ」「リンゴ」「モモ」「菌床しいたけ」といった数々の高品質な農畜産物が生産されている。

JAデータ

設立 1995年4月

本店所在地 〒506-0001
岐阜県高山市冬頭町1番地1

出資金.....64億円

貯金.....3,106億円

貸出金.....586億円

長期共済保有高.....7,253億円

受託販売品取扱高.....194億円

購買品供給高.....154億円

米価が大きく下がりましたが、幸いにも据え置きに近い値段で引き取ってもらえました。

石田 それはすばらしい。

谷口 もち米も『高山もち』を県の農業試験場が作出してくれました。これも非常に評判がよくて、酒米をやや超える値段でメーカーさんに買ってもらっています。おもちのほか、おかき、あられの原料となるのですが、3万俵くらいの出荷があります。

石田 そうなると、集荷率も相当高いでしょうね。

谷口 ええ。個人販売をされている方が一割くらいおられますが、それ以外では、自家用米を除くと、ほぼ全量をJAが集荷しています。野菜、牛もほぼ100%JAを利用していたいただいており、ありがたいことです。

石田 組合長は、ずっと営農畑を歩んでこられたのですか？

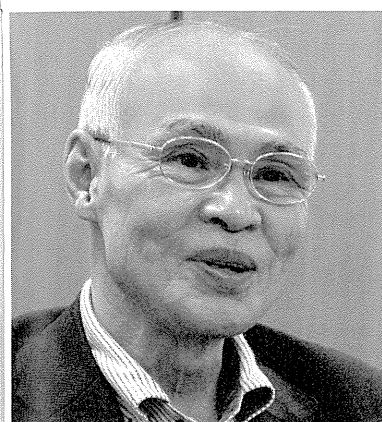
谷口 最初は、旧・高山市内の大八農協に就職したのですが、営農

畑を歩きました。営農指導から始まって、購買、販売、それに生活指導もやりました。その後、高山市農協で総務管理畑を歩み、合併があつて飛騨農協となり、支店へ出ていきました。その後は本店に戻って、企画総務部門を担当するようにになりました。

石田 元全農会長の大池裕さんは

高山市農協のご出身ですか？
谷口 吉城農協です。県連、全国連の会長をしておられましたが、毎週金土日はこちらに戻ってこ

いしだ・まさあき
1948年生まれ。東京大学大学院農学系研究科博士。専門は地域農業論。協同組合の元・日本協同組合学会の教授を経て現職。近刊『JA女性組織の未来へのグランドデザイン』『いち・地域を未来につなぐからの協同組合間連携』(ともに編著、家の光協会刊)。



いますので。

令和4年度から信連奨励金が下がることはすでに決まっていますので、2年度に店舗統廃合を理事会で決定していただき、3年度には地元説明会も開いてきました。しかし、それを実行する4年度になって、どんな問題が起こるのか予測できません。

コミュニティ店舗では金融窓口を存置し、そこで取次をしますよと言っていますが、基幹店舗ごとにコミュニティ店舗の数が異なっているの、管理統制がむずかしいのです。それぞれの基幹支店長が、実際の業務をこなすなかで最適解をみつけていかなければなりません。

石田 5本柱の「経営理念」の一つに「互いに尊敬と威厳を持って接し、働きやすい環境を作り出す」とうたっています。これについては職員教育や処遇の問題をばらんでいますね。

谷口 女性職員の処遇は、国の制

れました。最後の一期というとき、常務にさせてもらいました。

大池組合長との思い出として心に残っているのは、平成7年に飛騨農協ができたとき、2階大ホールを仕切って、組合長室と企画総務部門が廊下を挟んで真向かいに配置されました。で、ひよつとそ

の廊下を出ると、大池組合長が部屋から出てきて、赤鉛筆2本を持って「この鉛筆、削ってきてくれんか」と私に言われたのです。

そのとき私は課長だったので、女性職員に「これ削って、組合長のところに持って行って」と言った

「経営理念」を活かしたJA運営

谷口 それ以来と言いましたが、大八農協に入ったときからそのつもりでいました。ですが、そんなことがあつて、改めて心に刻んだというわけです。

石田 JAひだの「経営理念」もかなり具体的に書かれています。そしてとても分かりやすい。

また、5本柱は、①事業運営を行うに当たっては、常に高いレベルを目指します、②心から満足いただけるサービスの提供を行います、③環境に配慮した活動に積極的に取り組みます、④次につなぐ為に適正利益の確保が不可欠であることを認識します、⑤互いに尊敬と威厳を持って接し、働きやすい環境を作ります——からなる。

要約すると、この経営理念は「組合員との約束」を具体的に宣言したものとみなされる。

JAひだの「経営理念」

本対談で話題となった「経営理念」の序文では次のように述べられている。

JAひだは「組合員、農家、地域住民に貢献することを実践し、組合員の経済的、社会的地位の向上および農業の振興を図り、地域の活性化に資することを基本理念とします。

また、5本柱は、①事業運営を行うに当たっては、常に高いレベルを目指します、②心から満足いただけるサービスの提供を行います、③環境に配慮した活動に積極的に取り組みます、④次につなぐ為に適正利益の確保が不可欠であることを認識します、⑤互いに尊敬と威厳を持って接し、働きやすい環境を作ります——からなる。

要約すると、この経営理念は「組合員との約束」を具体的に宣言したものとみなされる。

度のなかですいぶん働きやすい環境が整えられてきましたので、女性職員の定着率は高まっています。職員意向調査を毎年1回おこなっています。総合満足度の設問では「満足」が約半分、「普通」が約四割という結果が得られています。

九割近くはまあまあ満足しているのかなと思いますが、実際には20代後半から30代にかけての離職者が多くなっています。

石田 ある程度、知識や技術を身に付けた人たちが辞めていく。そうなる

うなると教育コストを回収できな

くなりますね。

谷口 支店長になるには、登録金融機関業務のなかで「内部管理責任者」の資格が必要となります。

この資格をとるには金融の専門的知識が必要になるので、営農担当者か尻込みする原因にもなっています。そうすると、農業や地域全体を見渡して、総合的な視野を持ち、支店を動かすという人材が育ちにくくなります。「人づくり」の面では、そんなジレンマを抱えているのが現状です。

(以下、次号につづく)



たにぐち・ひさお
1949年岐阜県高山市生まれ。68年大八農協入組。合併により高山市農協、飛騨農協職員となり、財務管理室長などを経て2008年に常務理事、11年に代表理事専務、20年に代表理事組合長、飛騨ミート農協連代表理事会長に就任、現在に至る。



【第21回ゲスト】

谷口壽夫氏 下

岐阜県 JAひだ 代表理事組合長

【インタビューとまとめ】

石田正昭

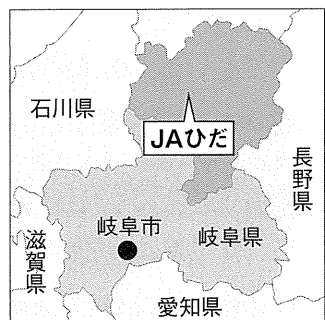
京都大学 学術情報メディアセンター 研究員

JAの主役は組合員。とくに女性や准組合員とのつながり強化に心を砕く谷口組合長。組合員の参加意欲の高まりが重要となるが、実際にはそれを引き出せるようなコミュニケーション能力の高い職員をいかに育てるかがポイントと語っている。

会員は2万2400人のうちの8000人(36%)。人数も、比率も、准組合員のほうが高い。女性の声をJA運動にもっと反映させなければなりません。

とくに女性理事は、この広い飛騨でわずかに3人。3市1村ありますが、3市から1人ずつ選出しています。それぞれの理事が地元で帰ったとき、さて自分の市で何ができるかな、仲間を広げるルートはあるかな、などと考えたりします。総代さんたちと相談しながら、JA運動を盛り上げていってほしい。それには、女性総代も、女性理事も、もっと増やさなければなりません。

石田 総代になってからJAのことを勉強する。理事になってからJA運営のことを勉強する。これでは遅すぎます。日ごろから積極的に活動し、JAを学んでいくなかで、総代に選ばれ、理事に選ばれる仕組みに変えていく必要があります。これは女性だけではなく、



石川県 岐阜県 愛知県 滋賀県

「飛騨ブランド」で農業、地域を元気に 「女性参加」を加速させたい

石田 JAひだは、飛騨地域の事業体でも大きいほうです。谷口 いちばんです。職員は嘱託・非常勤を含めて908人おりますが、地域でナンバーワンです。石田 それはすばらしい。地域の

みなさんが大切に思ってくれている証拠になります。同時にそれなりの責任も発生します。谷口 そのとおりです。その点でいうと、現在は女性理事が3人いますが、これを倍にしたい。総代

も10年くらい前に全体の1割にしましたが、これも増やしたい。石田 女性組合員はどれくらいいますか？

谷口 正組合員は1万3800人のうちの2300人(17%)。准組

男性にも当てはまりますが…。谷口 そのとおりです。同時に、女性職員の管理職登用も積極的に進めていきたい。それが地域ナンバーワン事業体としての責務だと考えています。

石田 コロナ禍で地域の風景も一変したのではないですか。谷口 大きく変わりました。コロナ前は観光客の半分は外国人でしたが、これがパタッと来なくなり

ました。また、非常事態宣言やら行動制限やらで、国内の観光客も激減しました。高山市内はもちろんです。飛騨温泉郷や白川郷のダメージも大きいです。

石田 それから飛騨牛も。谷口 そうですね。コロナ前は1頭、だいたい150万円だったものが、100万円まで下がってしまった。これでは肉牛農家はみんな駄目になってしまう。本当にみんな真剣になりました。この地域の地銀さんや信組さんにも協力

力いただいで、クラウドファンディングを開始しました。驚いたことに、わずか10日あまりで全国1万人の支援者から1億1400万円を頂戴しました。石田 1人1万円以上ですね。谷口 クラウドファンディングとは

いうのも、お値打ちに牛肉を

買っていただくという仕組みです。1万円以上1万円以上の返礼品がきます。集まったお金を地域の肉屋さんに割り振って、発送してもらい、そこに肉牛農家のメッセージを添えました。

「飛騨ブランド」の世界戦略

谷口 飛騨ミート農業協同組合連合会の会長もさせてもらっています。石田 H A C C P 対応ですね。

谷口 現在、EUや米国をはじめ14の国と地域へ輸出しています。飛騨ミートはカット肉のパッケージングまでをおこない、そのあと肉屋さんが輸出します。

年間処理牛6千頭の一割くらいが輸出用です。JAひだも特産加工センターを持っていて、昨年初めてアメリカ西海岸へ1頭分を輸出しました。今年は東海岸へ進出しようとして全農さんと打ち合わせをおこなっているところです。

全体の一割であつても輸出する。しないを比べると、A5の枝肉単価で3500円のもの30



JAひだ (飛騨農業協同組合)

組織の概況 (2021年3月末)

組合員数.....36,242人
(正組合員 13,851人
准組合員 22,391人)
役員数.....32人(常勤・非常勤含む)
職員数.....908人(嘱託・臨時を含む)

地域と農業の概況

岐阜県の北部に位置し、東に乗鞍岳をはじめとする北アルプスや御岳、西に白山連峰を望む高い山々に囲まれ、高山祭り、奥飛騨温泉などで有名な高山市をはじめ、古川祭り、三寺まいりの飛騨市、下呂温泉、小坂の滝の下呂市、世界遺産白川郷合掌造りの白川村の3市1村を管内としている。

また、昼夜の大きな気温差、冷涼な気候、豊かで良質な水などの自然の恵みを受け「飛騨牛」「米」「トマト」「ホウレンソウ」「リンゴ」「モモ」「菌床しいたけ」といった数々の高品質な農畜産物が生産されている。

JAデータ

設立 1995年4月
本店所在地 〒506-0001
岐阜県高山市冬頭町1番地1
出資金.....64億円
貯金.....3,106億円
貸出金.....586億円
長期共済保有高.....7,253億円
受託販売品取扱高.....194億円
購買品供給高.....154億円

00円まで下がってしまいました。

石田 なるほど。

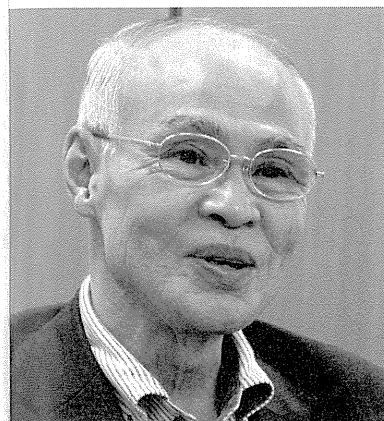
谷口 米余り現象が顕在化するなかで、米の輸出も考えていかなければなりません。

石田 飛騨米を輸出するならば、飛騨米もセツトで輸出したほうがよい。外国の水は硬度が高い。そんな水で炊くと、どんなにいいお米でもパサついておいしくない。飛騨の米、水、牛肉、そして酒をセツトにして、世界市場へ進出することをすすめます。

谷口 「飛騨コシヒカリ」のパックごはんもあるので、これも輸出したい。外国人が喜びそうな観光資源も豊富にあるので、これもアピールポイントにしたい。

石田 すばらしい。やはりストーリー性が重要です。ところで、非常に驚いたのは「JA教育文化活動方針(案)」という文書です。シンプルで、分かりやすく書かれています。女性たちの強い思いが伝わってきました。

いしだまさあき
1948年生まれ。東京大学大学院農学系研究科博士。専攻は地域農業論、協同組合論。元・日本協同組合学会の教授を経て現職。近刊『JA女性組織の未来 躍動へのグランドデザイン』(これからの協同組合間連携)(ともに編著、家の光協会刊)。



谷口 生活指導を担当した経験から言うと、女性たちの強い思いを感じるものが少なからずありました。ところが、それを受け止めるJA側に不十分なところがありました。今回、教育文化活動方針を策定するなかで、新たな態勢整備を図りたいと考えています。

石田 組合長の在所である漆垣内地域の加工グループ「うるっこ」による、エゴマを使った「あぶらえのたれ」づくり。記事が掲載された『家の光』を読むと、「お金

じゃないの。おしゃべりができて、ストレスが発散できるから続けられます。作業が終わったあとにお茶とお菓子で、さらにおしゃべりするの」というメンバーの発言のなかに、長続きの秘訣が読み取れました。

谷口 エゴマ・ブームが到来する前から取り組み、もうすぐ結成25年です。全員が専業農家で、トマトやホウレンソウ、米などを生産しています。活動は、通常は夜6時半から9時半ごろまで、冬の農閑期は昼間に行います。エゴマは

実を取り出すのたいへん手間がかり、人気はあっても生産拡大は難しい状況です。

石田 (株)数河未来開発もすばらしい。小水力発電で「ふるさと再生」を図ろうとしています。

谷口 正式名称は「JAひだ・数河清流発電所」。県の補助事業なので、JAとの共同事業となっています。数河未来開発では、耕作放棄地に竹を植林し、タケノコの加工品づくりや観光農園によるブランド化、水路の維持管理などに売電収益を充てています。

JA職員は「黒子に徹せよ」

谷口 いつも言っていることは、JA職員は「黒子に徹せよ」ということです。女性部活動にせよ、文化活動にせよ、メンバーの減少が大きな課題となっていますが、そうではあっても、これらがJA運動の原点であることは間違いありません。その意味で、従来のやり方ではなく、一ひねりも、二ひ

ねりも必要だぞということ、いろいろな事例や情報を集めながら、教育文化活動方針を策定するように指示しているところです。

石田 率直に言って、JAひだの組合員活動は全国でも屈指のものだと思えます。メンバーの減少が話題になっていますが、重要なことは数ではない、質です。メン

バー自らが発想し、活動する。そして、JAを、地域を変えていく。そんな組織づくりが大切です。
谷口 職員力も、組合員力も重要というわけですね。組合員とのつながり強化という点では、次世代や准組合員とのつながりをもっともっと強めていかなければなりません。当然ながら、女性、男性の区別なしに取り組んでいくことも重要です。

石田 広報誌『飛騨』を拝見して



の感想ですが、NPO「飛騨高山わらべうたの会」とのコラボによる「大地の恵みサマーフェスティバル(食はいのち うたはともだち)」はすばらしい企画です。JAが高山市の指定管理者となっておこなっている「荒城農業小学校」も大いに誇ってよいでしょう。「JAひだ旗争奪飛騨少年野球大会」も30回を迎え、長い歴史があります。聞くところによると、そのあとを追うかのように、高山信金が「高山信金理事長旗争奪野球大会」を始めたそうです。
谷口 そういうイベント的な取り組み、あるいは通常のコミュニケーションでも対応できます。しかし、教育文化活動の真髄は、組合員の主体性の発揮にあります。自分たちの責任において目的を完遂するのだという強い自覚を持ってもらいたい。主役はあくまでも組合員です。そうした働きかけのできる職員になってもらいたい。

「活私開公」ここにあり

「活私開公」は公共哲学の用語である。日本社会に広がる「減私奉公」とは正反対の意味をもつ。「私を活かして、公共(みんな)の役に立つ」といった社会変革の議論につながる。

信包支店「JAサロンのぶかるチャー」の取り組みはその典型である。人と人がつながり、地域が求めている活動を行い、自己も喜び、不特定多数の他者も喜ぶ。そんな内容の活動である。

このサロンのまとめ役を務める砂田芳道さん(75)は「この地域に暮らす人たちが立ち寄っては作品を観たり、おしゃべりを楽しんだりできる場所があればいいですよ」と語る。自らを「光輝高齢者」と名乗る。

詳しくは『家の光』2020年12月号の中日本版「きらりハーモニー」を参照されたい。

石田 その点では、古川町信包支店の「JAサロンのぶかるチャー」は、ベストの事例となりますね。男女8人の組合員が、水彩画や写真、手工芸品など、メンバーの作品を展示するギャラリースペースと、おしゃべりのできる憩いの場をつくりました。文化力の高さを感じられます。
谷口 もともとはAコープだったところを、JAサロンに変えてきました。高く評価しています。多少は支店長の働きかけがあったのかもしれない。しかし、信包の

人々には「自分たちの力で地域の拠点をつくらう」という強い意思がありました。

今後はこうした空き店舗がいくつか出ますので、それをどう再利用していくか、それぞれの地元で研究会をつくり、検討していったらいいと思います。

石田 いいですね。遊休施設の再利用を組合員自身が考え、実行する。とくに地域の人が集うサロンの設置は画期的です。全国のモデルケースとなるでしょう。

(終・取材 令和4年1月5日)